

福祉のひろば 3

2021

特集

いのちと暮らしを支える福祉労働

—第25回合宿研究会 in 京都—



編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



クリエイツかもがわ
CREATES KAMOGAWA

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <http://www.create-k.co.jp>

TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料240円(5000円以上無料)



若年性認知症を 笑顔で生きる 笑顔で寄り添う

松本恭子・田中聡子／編著

とうさんはなぜ、
すぐに退職しなければならなかったのか
治療と就労を可能にする“両立支援”と、家族
と本人を支援し、望む居場所を調整する“若
年性認知症支援コーディネーター”の役割を
明らかに。 A5判144頁 1500円＋税

YouTubeでわかりやすく紹介
動画で本に出てくる歯ブラシの動かし方や
お口のマッサージ方法を見ることが出来ます。



障害のある人たちの 口腔のケア 改訂版

玄 景華／監修 栗木みゆき／著

口腔のケアは、口臭の改善やむし歯予防、マッ
サージなどの刺激で口の機能を高め、誤嚥性肺
炎の予防につながる。口の構造やはたらき、病
気の基礎知識から、障害によるトラブルの対応な
どをわかりやすく解説。 A5判108頁 1400円＋税

1人の餓死者・凍死者も出すな！

第51回 釜ヶ崎越冬闘争



「仲間内の団結で1人の餓死・凍死者も出すな！」

「野宿の仲間への襲撃を許さないぞ！」

「安心して働き生活できる釜ヶ崎をつくろう！」

12月28日～1月4日、三角公園周辺を中心にして第51回釜ヶ崎越冬闘争がおこなわれた。今年は新型コロナの感染対策に配慮しながら、緊急相談会、炊き出し、テント宿泊所提供、人民パトロール（夜回り）などがとりくまれ、その結果、1人の死亡者も出さなかった。

大阪に初雪が舞った12月30日、三角公園を訪ねると、そこはドラム缶焚き火を囲むおっちゃんたちの笑い声と歌声に包まれていた。「このまちがなぜか好きで」と神戸から毎月来ているという学生が、おっちゃんに缶チューハイをおごってもらい、「今度は彼女を連れてこい」とからかわれていた。



三角公園隣地にテントを設置しての炊き出しには、18時の開始前から100人近い列ができた。列の最後尾ではボランティアの実行委員が、1人ひとりにマスクを配り、検温と手指消毒をおこなっていた。

今夜のメニューは、カレーライスと野菜たっぷりのスープ。間隔を空けたテーブルで食べる人あり、テイクアウトでレジ袋に入れて持ち帰る人あり。おかわりを求める人とスタッフとの笑い声が絶えなかった。



12月21・22日受付でおこなわれた大阪市自立支援課の「越年対策事業」。臨時宿泊を希望した276人は、全員が「あいりんシェルター」と「三徳生活ケアセンター」に入所することができた。

臨時宿泊を希望せずに野宿をする人たちに、寝袋や布団を貸し出しながら健康状態を確認する人民パトロールは、釜ヶ崎地区内、難波^{なんば}、梅田、天王寺、日本橋へと、30日から毎晩おこなわれた。

また、大型テントを3つならべて囲われた「集団野営」は生命を守る最後のとりでだ。臨時宿泊所が設置された29日から路上で寝ている人は減ったが、年明けからまた増えはじめ、1月3日には66人になったという。



西成労働福祉センターの玄関先には、ダンボールで囲って野宿する人がいた。その向かい側の旧「あいりん総合センター」前でも、ブルーシートのテントを張って布団の貸し出しと宿所の提供がおこなわれていた。「越冬闘争」は1月4日で終了したが、コロナ禍で失業・休業に追い込まれる人たちが増えている状況に対応するため、夕方の炊き出しは延長戦で1月20日現在もつづけられている。

(写真・文 塩見一弥)

【ひろばトーク】

新自由主義のつぎの社会へ

～大阪市「住民投票」をへて～

酒巻 眞世 6

福祉のひろば

2021年3月号

●特集● いのちと暮らしを支える福祉労働

第25回合宿研究会 in 京都

コロナ集団感染の経験から思うこと 園部 泰由 13

保育は子どもと保護者の“生存権保障” 小堀智恵子 15

地域支援からみえるコロナ禍の状況 安田 光良 18

社会福祉協議会からみるコロナ禍と課題 黒川 奈緒 21

【寄稿】「公務員だから仕方ない」から「公務員だから声をあげよう」へ

コロナ禍での保健師、保健所職員増やしてキャンペーン

小松 康則 23

●トピックス●

【PHOTO】 特別養護老人ホームとかみ共生苑ふれあいセンター 30
福祉実践としての「食」を守る

伴光江／若宮匡／奥島須賀子／鈴木徹生／森谷真由／竹原洋子 32

聞こえないマンガ家として、

発信し、行動し、やさしい社会をめざしたい 平本龍之介 40

(高齢) 2021年度報酬改定の概要と影響 井上ひろみ 44

(障害) 2021年度報酬改定の概要と影響 近藤 正樹 47

●連載●

WORK WORK——わくワク——

香り・旨味・辛味がたあんと味わえる金澤たんとかレー

特定非営利活動法人ふれあい工房たんとか ふれあい工房たんとか御所 52

検証！ 介護保険20年

第6回 ショートステイからみる介護保険 宮崎牧子・大島浩子 54

かさねあい、はぐくみあう保育実践

前へ向かって！ もっと自分らしく輝こう 副島 帆果 58

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 (20) 水野阿修羅 62

相談室の窓から

班をこえた交流・体験で見えてきたこと 青木 道忠 64

育つ風景 清水 玲子 66

担任の保育士に常勤者がいなくてほんとうにいいの？

ひととしてあたりまえに生きたい

「なかまの里をつくる会」会長として (2) 清田 廣 68

映画案内 『時雨の記』 吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて 生田 武志 72

緊急事態宣言下の生活困窮問題

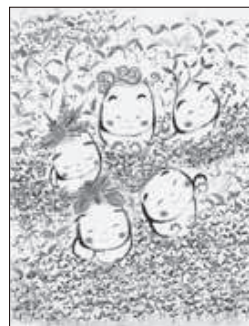
似らずとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

似顔絵でキャラクターになるのじゃ！ ラッキー植松 74

ホームレスから日本をみれば ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ 川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子



みんなのポスト 50 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81

●グラビア● 1人の餓死者・凍死者も出さな！

第51回釜ヶ崎越冬闘争

新自由主義のつぎの 社会へ

～大阪市「住民投票」をへて～

民青同盟中央副委員長・民青同盟大阪府委員長

酒巻眞世

一月一日に大阪市で実施された住民投票で、日本民主青年同盟大阪府委員会（府同盟）は「大阪市を残してこそ、よりよい大阪がとれる」という立場でたたかいました。住民投票の対話宣伝で大事にしたことは、「最後の最後まで市民の方と一緒に考え合う対話」です。わからない人が「わからない」と聞ける宣伝の雰囲気づくり、「反対」か「賛成」かだけを問う対話ではなく、「どんな大阪に住みたいですか？」と問いかけて、正しい情報を伝えながら、一緒に考える対話を意識しました。

維新の会は、「反対派のデマにだまされないで。住民サービスはよくなる」と宣伝し、最終盤の「特別区設置コスト二一八億円増」という毎日新聞の報道を「ねつ造」「誤報」と攻撃し、試算や資料を撤回させました。そうした事態に、「賛成派と反対派は真逆のことを言っていて、どう判断したらいいかわからない」「賛成が一票でも多かったら決まってしまうのが怖い」と混乱される方、投票すること自体に不安を抱く方がたくさんいました。

しかし、ていねいに対話するなかで、「市の施設がすでに廃止される予定だとは知らなかった。投票前に知れてよかった、反対します」「決めかねていたけど、市の財源や権限が府に奪われたら大阪市は貧乏になる。明確にいいことがないなら反対するわ」「反対している人の話を聞けてよかった、ありがとう」などの声をいただきました。相手の思いや意見を尊重し、「おしえる」のでも、「わからせる」のでもない、「一緒に考え合う」という対話が、市民の方が自信をもって「反対」に投票することを励ましました。

今回の住民投票で感動的だったのは、宣伝中に「ビラを二〇〇枚ください」と声をかけてくれる方がおられたり、対話宣伝で出会った青年が後日、宣伝に参加してくれるな



さかまき まよ

青年の要求実現をめざして活動する日本民主青年同盟大阪府委員会の専従。2017年から民青大阪府委員長、2020年2月から民青同盟中央副委員長として東京都で活動する。30歳。守口市在住。家族はパートナーと3匹の猫。趣味はスパイスカレーづくり。今年の目標は「資本論」の読破！

ど、連帯と共同が大きくひろがったことです。そういった運動のひろがり、**「反対」**に投票する市民をひろげ、**「大阪市を残す」という結果をつくりだしたと実感しています。**

しかしその後、維新の会は住民投票の結果を無視し、二月議会で**「広域行政一元化条例」**の制定をめざし、なにがなんでも大阪市の権限と財源を奪おうとしています。議会の議席構成は彼らにとってはたしかに有利ですが、そこに民意の後ろ盾はありません。維新の会はそうした数の力で強権的にするしかないほど追い詰められています。

「コロナで一か月休業、休業補償は四割しかされない」「バイトのシフトが減らされて、奨学金を借りるしかなかった」など、実態は深刻になる一方です。

しかし、希望も生まれています。この間、**「コロナ危機で資本主義は限界じゃないのかと考えるようになった」「自助・共助を国民に押し付けるのは政治の責任放棄。今の政治を変えないと、生活が壊される」と、真剣に社会と政治について考える青年と出会ってきました。**コロナ危機のもと、社会を変革していく大きなうねりが生まれています。

維新の会が悲願としている**「大阪市廃止」「都」構想**は、結局は破綻した新自由主義路線の継続です。そうした点から捉えると、今回の住民投票のたたかいは、大阪から**「新自由主義の転換をめざす運動」**であり、**「新しい政治を切り開いていくためのたたかい」**でした。

今年はかならず総選挙がおこなわれます。菅政権・維新府政にかわる新しい政治を切り開くために、来るべき総選挙で、政権交代を実現させるときです。新自由主義と決別し、青年・国民のいのちと生活が守られる政治をつくるためにがんばる決意です。

いのちと暮らしを支える福祉労働

新型コロナウイルス感染症が指定感染症となり、一年がたちました。人との接触を控え、感染予防をとることしか対抗策がないなかで、対人援助である福祉の仕事は大きな影響を受けました。また、そうした対人援助を軽視し、経済成長ばかり重視してきた国の政策、社会のあり方が問われた一年でもありました。

政府や経済界はこの二〇二五年ずっと、個人や企業を競争させ、〝生産性〟を追求すれば、自然と経済は成長し、その結果労働者の賃金も増え、国民の生活はゆたかになるんだ、という「トリクルダウン」を主張してきました。

しかし現実には、儲けた企業や個人はその富を溜め込み、決して労働者には落ちてきていません。その象徴が、コロナ禍で昨年末にバブル期を超える最高値を記録した株価と、多くの国民の生活実態との乖離ではないでしょうか。

昨年の自殺者数は前年度比で七五〇人増えました。一一年ぶりの増加で、しかも女性や若年層の増加が目立ちます。コロナ禍で非正規労働者や自営業者を中心に多くの人が職を失い、年末には全国各地さまざまな支援団体による相談会や炊き出しがおこなわれました。子ども食堂は前年度から一三〇〇か所以上増えています。福祉現場でも、多くの職員さんが、自身の生活を制限し、感染対策を徹底し

ながら、利用者さんのいのちと暮らしを守るためにふんばってきました。

菅総理は、「自助・共助・公助」が理念だと語り、「まずは自分でやってみる」という「自己責任」をおしつけ、医療・福祉現場や困窮している国民への支援には積極的にとりくもうとしません。

一月に開催された第二五回合宿研究会では、それぞれの福祉現場から、コロナ禍の経験とそこから見えた課題、そしてこれからなにを考えなければいけないのか、について報告していただきました。エッセンシャルワークということばが一定広がり、あたりまえだったことがあたりまえにできなくなつたときに、医療や福祉が人々の生活にとってどれだけ大切かを実感した人も多いと思います。

寄稿いただいた大阪府職員関係労働組合の保健師さんのキャンペーンは、六万人の署名をあつめ、テレビ、新聞、雑誌とさまざまなメディアに取り上げられています。それだけ、このキャンペーンが国民の共感を呼んでいる、ということだと思います。

国が進めてきた効率性、生産性、経済成長だけでは社会はまわらない、国民の生活は守られないことが、この一年をとおしてあきらかになりました。これからは、経済の成長ではなく国民のくらしを支えてきた私たちの仕事、実践の中身、その専門性の高さをより大きく、広く発信していくと同時に、私たちがめざす暮らしや社会の「ゆたかさ」とはなにか、ことばにしていくことが求められているのではないのでしょうか。『福祉のひろば』でも、そうしたゆたかな福祉実践や人間的な成長と発達、その先にあるだれもが大切にされる社会のあるべき姿を、発信していきたいと思っています。

(編集主任)